

2018年度 適性検査

「国語の読解力」

【大問1】 次の各設問に答えなさい。

(全12問/配点70点)

問1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文章を書くのは、筆で字を書くのに似ているのではないか。そういうことを、いつだったかまじめに考えたことがある。

ごく短い文章を書くとする。それは字画のすくない文字を書く心得で書くといい。たとえば、三の字。これは三つのことをのべる文章の構造を象徴している。三つのことがらが並ぶ。三の字を書くとき、まったく同じ線を三つそろえて併置したのでは、文字の体をなさない。はじめの線は両端をややあげたソリ気味にする。まん中は素直に水平な線で、上の線よりすこし短か目とする。いちばん下の線は中央をすこし高くしてそらせる。この三つの線が調和したとき、見た目に美しい字になる。

それと似た配慮が三つのことを言う文章にも必要であろう。

(外山滋比古『日本語のかたち』)

問い：「それと似た配慮」とあるが、どのような配慮か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 長い文章が続くと読み手の負担になるため、短い文章で簡潔に書くようにする。
- ② 短い文章は三の字のようなものだから、三つのことがらからなるように構成する。
- ③ 調和した文字が見た目にも美しいように、文章も少ない文字数で書くようにする。
- ④ 文章を書くときには、三の字形を意識して、二つ目の文章を短くし、三つ目の文章を長くする。
- ⑤ 文章を書くときには、同じ調子で書くのではなく、それぞれの文章に変化を持たせるようにする。

問2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

源ジイはゆっくりと左足をひきずりながら、歩き始めた。廊下の先にある窓のなかに夕日が沈んでいく。病院の白い廊下はさしこむ夕日で床も壁も天井も、赤く照り映えていた。赤い<sup>ひか</sup>光りは廊下を越えて、窓の外まで続いている。住宅の屋根やマンションの屋上<sup>ひか</sup>が沈む太陽の光りを浴びて、ひと筋の夕日へ続く道のように見えた。

あたたかな光りのなかを、老人は歯をくいしばって歩いていた。廃品回収の軽トラックほどのじりじりとした速度だった。

(石田衣良「夕日へ続く道」『約束』所収)

問い：この文章に見られる表現上の工夫として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「左足をひきずりながら」「歯をくいしばって」などの描写で、老いてなお厳しい人生を強く生きようとする老人の姿を描いている。
- ② 夕日の赤い色を繰り返し強調することで、作品の情熱的な雰囲気表現している。
- ③ 太陽の光りを「あたたかな光り」と表現することで、老人が幸せな一生を過ごしてきたことを表している。
- ④ 「ひと筋の夕日へ続く道」と表現することで、町がこれから夜の眠りにつくことを示している。
- ⑤ 老人のじりじりとした歩みを強調することで、老人の死期が少しずつ近づいていることを暗示している。

問3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これからの時代は、ある分野を極めたいという意志さえ持てば、あたかも高速道路を疾走するかのようなスピードで、効率よく過去の叡智<sup>えいち</sup>を吸収できる。そんな「学習の高速道路」が、あらゆる分野に敷かれようとしている。「学習の高速道路」自体は、たとえば、リタイア後の生活に経済的不安がない団塊の世代の方々が大好きな趣味や専門を楽しみながら極めていきたいと考える場合など、素晴らしいことこのうえない。

(梅田望夫『ウェブ時代をゆく——いかに働き、いかに学ぶか』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 趣味や専門を楽しみながら学習することに最適化される
- ② 定年を迎えた人々だけが、ネットを利用して気軽に学ぶことができる
- ③ いったん言語化された知がネットを介して容易に共有される
- ④ 過去の知識が高速でネットを駆けめぐり、新しい知に置き換えられる
- ⑤ ネットを使った高速学習で、すべての人々が過去の叡智を身につける

問4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

質問に答える場合はどうでしょう? 「行く(の)か」という肯定形の問いかけであれば、「行く」とときには英語で「イエス」、日本語で「はい」、「行かない」とときには英語で「ノー」、日本語で「いいえ」と返事をするので、この場合はきちんと対応します。しかし、「行かない(の)か」という否定形の問いかけになると、「行く」ときに英語は「イエス」で日本語は「

(中村明『日本語のニュアンス練習帳』)

問い：空欄A～Dに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- |   |       |       |      |      |
|---|-------|-------|------|------|
| ① | A：はい  | B：いいえ | C：肯定 | D：否定 |
| ② | A：はい  | B：いいえ | C：既定 | D：未定 |
| ③ | A：いいえ | B：はい  | C：肯定 | D：否定 |
| ④ | A：いいえ | B：はい  | C：既定 | D：未定 |

問5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヤマダ：じゃあ、知らないうちに俺たち、タカハシの恨みを買ってたかもしれないってこと？

スズキ：そう言われると自信なくなってきた。ヤマダ君なら恨まれても仕方ないかもしれないけど。

ヤマダ：なんでだよ。

スズキ：分かってるくせに。

ヤマダ：あのなあ、今さらこんなこと弁明しなきゃなんないのも嫌なんだけどさ、俺とあいつの間には何もなかったから。□□。

サトウ：実際そうだったからじゃないの。

スズキ：でも、ヤマダ君を恨むんなら、ヤマダ君だけ呼び出せばいいわけだし。

サトウ：一人だけだと、呼びだしても出てこないと思ったんじゃないか。

スズキ：みんなも呼んだって嘘<sup>うそ</sup>つけばいいのよ。そのほうが簡単じゃない。

サトウ：ヤマダが俺かタナカに確認したら、嘘だってすぐバレるぞ。

スズキ：あたしだったら、確認しないほうに賭ける。みんな忙しいし。

ヤマダ：だから、何もなかったっつうのに。

(恩田陸『猫と針』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 逆にみんなが恨まれてるんじゃないの
- ② みんなそう思いこんでるみたいだけど
- ③ なんで俺だけ呼び出されたんだろう
- ④ タカハシのことはよく知らないし
- ⑤ だから俺だけ呼ばれてないんだよ

問6 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

まなざしに仰角 30 度の陶醉がある

あなたはきけば指揮者だといふ

井辻朱美

『水晶散歩』(平 13) 所収。ある男性の横顔の寸描だが、目のつけどころに新味があり、表現にもそれに見合った面白さがある。やや上向きのまなざしに特徴のある人なのである。「仰角 30 度の陶醉」という表現も、短歌に詠みこまれてみると珍しさがあるが、どちらかといえばちょっと<sup>きざ</sup>気障なひとという感じで切りこんだ人物像が、下の句でストンと落ちがつく。なるほど、指揮者ときけば納得、と思い、音楽会の情景も目に浮かぶ。

(大岡信『新折々のうた 7』)

問い：「目のつけどころ」とあるが、この短歌の詠み人はどのような点を意識して歌をつくったと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 下の句に「きけば指揮者だといふ」とあるように、詠み人と指揮者の会話している場面を描こうとした。
- ② 上の句で謎めいた男性を描写し、下の句でその正体を明かすことで、読者の意表をつこうとした。
- ③ 「仰角 30 度の陶醉」という表現をつかうことで、新しい短歌の可能性を示した。
- ④ 指揮者の人物像を細かく描写することで、音楽会の情景を想像させようとした。
- ⑤ ちょっと気障な人物を描くために、あえて「仰角 30 度の陶醉」という意表を突く表現をつかった。

問7の問題は著作権の関係上、公開できません。



問 8 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いっばうで気づいたことがあります。それは、「英語力はスキルを磨けば伸びる部分と、スキルだけではどうにもならない部分がある」ということです。

言葉というのはコミュニケーションツール、つまりは「道具」です。どんなに正確な英語が話せても、そこに自分の思いやメッセージをこめることができなければ、相手とのコミュニケーションは成り立ちません。

コミュニケーションのほんとうの目的は、ただ言葉を交わすことではなく、人間関係の構築であるはずです。会話をすることによって、相手への信頼や尊敬が生まれたり、逆に反感を抱いたりといった感情の交流が生じてこそ、ほんとうのコミュニケーションといえるんじゃないでしょうか。

、コミュニケーション能力を鍛えるには、実際に※フェイス・ツー・フェイスで会話をしながら、人間的なやりとりを積み重ねる経験が不可欠なのです。

(陰山英男『人生にとって意味のある勉強法

——英語やお金の教養を磨く陰山メソッド』)

※フェイス・ツー・フェイス——face to face。面と向かい合っただの意味。

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① つまり
- ② かりに
- ③ けれども
- ④ また
- ⑤ ところで

問9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宇宙は $10^{27}$ メートル、素粒子は $10^{-35}$ メートル。この途方もないスケールが、私たちが存在する自然界の「幅」ということになります。その両端にある宇宙研究と素粒子研究のあいだには62桁もの「距離」がある、と言ってもいいでしょう。

ところが最近の研究では、まったく関係なさそうに見えるこの2つが、実は密接につながっていることがわかってきました。

その背景にあるのは、いわゆる「ビッグバン宇宙論」です。

ビッグバンの考え方によれば、宇宙は最初から現在のように巨大な空間だったわけではありません。誕生直後から徐々に膨張して、いまのサイズになっている。その証拠も見つかっていますが、それはまたのちほど説明しましょう。

膨張しているとすると、宇宙の歴史を遡<sup>さかのぼ</sup>っていけば、そのサイズは逆にどんどん小さくなっていきます。ビッグバン直後の宇宙は、それ以上は小さくできないほど小さいものだったでしょう。

これは、まさに「素粒子の世界」だと思いませんか？

(村山斉『宇宙は何でできているのか——素粒子物理学で解く宇宙の謎』)

問い：本文で筆者が読者に伝えようとした内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 膨張が始まる前の宇宙は、今よりもはるかにサイズが小さかったこと。
- ② 「素粒子の世界」を研究しなければ、宇宙の歴史は解明できないこと。
- ③ 宇宙研究は、 $10^{27}$ メートルの途方もないスケールを扱った研究であること。
- ④ 「素粒子の世界」は、宇宙論ともつながりのある興味深い世界であること。
- ⑤  $10^{27}$ メートルから $10^{-35}$ メートルの「幅」が途方もなく広いということ。

問10 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

勉強ができる学生は、まんべんなく勉強しているのではなく、重要な点を押さえています。つまり、不均質な努力をしているのです。

できる学生は、どこが重要かを捉えています。「全体の中で重要な2割が何であるか」を把握しており、そこに努力を集中しています。のんびんだらりとやっているのではなく、めりはりがあります。

「幹と枝葉の区別」と言ってもよいでしょう。頭のよい子、勉強のできる子というのは、幹を押さえるのが上手な子です。勉強の苦手な子は、何が要点か分からず、膨大な情報の中で途方に暮れています。勉強のコツは「集中すること」なのです。

(野口悠紀雄『「超」集中法——成功するのは2割を制する人』)

問い：「不均質な努力」とあるが、どのような努力か。20字以内で説明しなさい。

問 11 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現実に必要な数学には、数を数えるだけではなく、すでにわかっている数から、未知の数を算出することが求められます。すべてが実測でわかるわけではないからです。ここの長さ、ここの長さから、ここの長さを割り出す、といった計算が、建物を建てたい時、橋を架けたい時などに必要となります。その計算が現在、私たちが使っている、方程式というものに発展しました。

(柳谷晃『数学はなぜ生まれたのか?』)

問い：「その計算」とあるが、どのような計算か。「ための計算」にあてはまるように25字以内で抜き出ささい。

問 12 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

敬語本に目を通していくと「過剰敬語はやめましょう」というアドバイスが目立ちます。確かに敬語は、かつては十分に敬意を表せていたはずなのに、使いこむうち、敬意が十分で無いように感じられるという習性があります。

「次の方」よりは「お次のお方」？ いや、「お次のお客様」かな？

この<sup>おな</sup>箕にはまると、どんどん屋上屋を架して、結果的に<sup>いんぎんぶれい</sup>慥無礼さが目立ったり意味が通らなくなったりという副作用を招く事があるから要注意です。

(梶原しげる『すべらない敬語』)

問い：文章の内容から、筆者は敬語を使ううえでの注意点としてどのようなことを述べているか。30字以内で答えなさい。

【大問2】 次の文章と資料を読んで、後の各問いに答えなさい。(全5問/配点30点)

漁業は、漁船などを用いて水産物を獲る「漁業」と、人工設備で水産物を育てて収穫する「養殖業」に分けることができる。日本の漁業生産量における養殖量の割合は、30年前と比べて約1割増加している。

養殖業の特性は、次の6点である。(1)経営を見通すことや、計画的に水産物を供給することが可能である、(2)育種や飼育方法の改良によって、安定した高品質の水産物を効率的に生産することが可能である、(3)餌や成育環境等の記録が可能である、(4)餌を媒介して感染する寄生虫を排除することが可能である、(5)糞や餌の食べ残しによる漁場の汚染が起こりやすい、(6)病気を防ぐために、水産用医薬品等を使用する必要がある。

漁業と養殖業では、経営にどのような違いがあるのだろうか。グラフ1は、 ㉑ したものである。これを見ると、漁業と養殖業のコスト構造が大きく異なることがわかる。養殖業はコストの7割をエサ代が占める一方、漁業は約3割を人件費、約2割を燃料代が占めている。養殖用のエサの主原料である魚粉は大半を輸入に頼っているため、コストに占めるエサ代の割合が大きい養殖業は、 ㉒。このため、国では漁業者と国が一定の割合であらかじめ積立てを行い、魚粉の価格が一定以上上昇した場合に、その積立金から補填金を交付する事業を実施している。

かつて、養殖魚は天然魚の代替品として扱われていたが、現在、日本の卸売市場では、養殖魚が天然魚より高値をつけている。天然魚は旬が近づくと卸値が上がるが、同時に水揚げ量も増えるので、価格が下がりやすい。一方、養殖魚は ㉓ ため、天然魚より価格が安定している。

世界の漁業・養殖業生産量は、1994年から2014年の20年間で約6割増加した。その最大の理由が、 ㉔ である。養殖業が漁業・養殖業生産量全体に占める割合は1994年には、全生産量約1.2億トンのうち23%（生産量にして2780万トン）だったが、2013年度に初めて50%を超え、2014年には、全生産量約2億トンのうち約51%（生産量にして1億114万トン。94年の3.6倍）を占めている。中国やインドネシアでは養殖が約7～8割を占める。

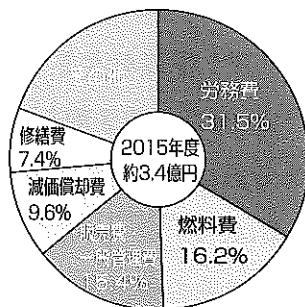
日本の漁業生産においては、魚種によって、圧倒的に養殖物の占める割合が高いも

のがあることが特徴的である。2015年の漁業生産量のうち、ウナギのほぼ100%、マダイの約81%、クロマグロの約68%、ブリ類の約53%、ホタテの約52%が養殖物であった。

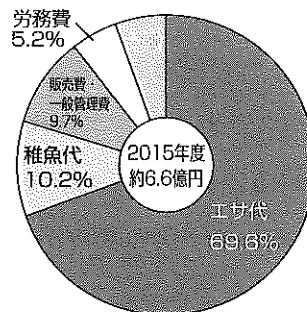
では、日本国内の養殖魚の主産地はどこだろうか。養殖は、沿岸の海面で幼魚を育てる「海面養殖」と、湖や沼で育てる「内水面養殖」に大別することができる。表1は、海面養殖の代表格である、ブリ類、マダイ、ホタテガイ、カキ類、ワカメ類の都道府県別生産量ランキングである。これを見ると、◎ことがわかる。いっぽう、内水面養殖は、大きな湖沼や川がある、または地下水が豊富な地域でさかんである。

グラフ1

漁業 コスト内訳



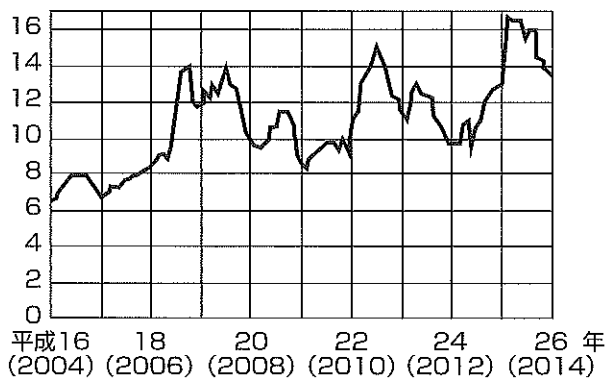
養殖業 コスト内訳



農林水産省 水産白書「漁業経営調査」(2015年)

グラフ2 魚粉輸入価格の推移

万円/トン



農林水産省 水産白書「漁業経営調査」(2015年)

表1 養殖魚の都道府県別生産量ランキング

	1位	2位	3位
ブリ類	鹿児島県	大分県	愛媛県
マダイ	愛媛県	熊本県	三重県
ホタテガイ	北海道	青森県	宮城県
カキ類	広島県	宮城県	岡山県
ワカメ類	岩手県	宮城県	徳島県

農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(2015年)

問1 文章の内容とグラフ1を踏まえて、空欄㉑に入れるべき適切な内容を、20字以内で答えなさい。

問2 文章の内容とグラフ2を参考にして、空欄㉒に入る説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 魚粉の輸出国の情勢に生産量が左右される
- ② 魚粉を使わないエサの開発を望んでいる
- ③ 魚粉の国際価格に収益が左右される
- ④ エサの魚粉配合比率に魚の味が左右される
- ⑤ 魚粉の輸入量に魚の成長が左右される

問3 空欄㉓に入る内容を、文章中から20字で抜き出しなさい。

問4 文章の内容を踏まえて、空欄㉔に入る説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 漁獲量の急増                      ② 養殖量の急増                      ③ 養殖技術の革新
- ④ 養殖地の拡大                      ⑤ 養殖魚の価格の高騰

問5 表1を参考にして、空欄㊦に入る説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 冷たい海水を好むワカメの養殖は東北に集中しており、温かい海水を好むブリ、マダイは九州地方に集中している
- ② どのような気候条件のもとでも育つかきとワカメの養殖は、広く全国に分布している
- ③ ブリ、マダイは温暖な地域での養殖がさかんであり、冷たい海水を好むワカメの養殖は東北に集中している
- ④ 貝類は冷たい海水を好むことから、ホタテガイとカキの養殖が東北に集中している
- ⑤ ブリ、マダイは温暖な地域での養殖がさかんであり、冷たい海水を好むホタテガイの養殖は北海道と東北に集中している



(以下余白)